

アレルギー対策

花粉症・食物アレルギー・ アトピー等への対応



(絵「庭の食卓」/宮迫千鶴)

3月といえば花粉症。スギ花粉の飛散がピークを迎え、マスク姿で外出する人が目立ちます。花粉症は今や、アレルギー疾患の代表的存在となりました。

アレルギーのことを「先進国病」あるいは「文明病」と呼ぶことがあります。日本でも3人に1人は、花粉症やアトピー性皮膚炎、喘息、あるいは食物アレルギーなど、何らかのアレルギー疾患またはアレルギー症状で悩んでいると言われています。

石坂公成先生と石坂照子先生が、アレルギーを引き起こす物質として免疫グロブリンIgEを発見されてから既に40年以上が経過しました。IgEの発見を契機に、アレルギー関連の免疫学研究の進歩は目覚ましいものがあります。しかし、アレルギー性疾患が近年なぜ増加したのか？最近の生活習慣や環境がアレルギーの発症や重症化にどのように関与しているのか？などについては、まだまだ研究途上にあるように思います。

また、インターネットの普及等により、アレルギー疾患に関する各種情報が容易に入手できるようになった反面、いわゆる民間療法等に関する情報も氾濫し、国民が正しい情報を取捨選択するのが困難な状況となってきました。これらを背景として最近では、花粉症の予防を謳った健康食品による健康被害の報告もあり、問題となっています。

そこで本特集では、わが国におけるアレルギー疾患の現状と対策上の課題、アレルギー疾患の発症予防や重症化予防に関する最近の研究成果、および地域や学校等におけるアレルギー対策の実際などについて、研究や対策面の第一線でご活躍の方々をお願いして、公衆衛生関係者向けの解説や提言をいただきます。